

4年間の学びのステップ

学びのポイント

カリキュラム

1年次 製図の基礎を習得し、都市環境の概論を学びます。

専門科目の基礎となる数学、物理学、化学、情報処理などを学ぶ一方、教養科目では、住民との対話で不可欠なコミュニケーションスキル、まちづくりで欠かせない法学や経済学、心理学、歴史などを学修。前期の「創造工学基礎演習」では製図の基礎を学び、後期は都市環境の概論に触れます。

2年次 都市環境工学に直結する専門科目を履修します。

都市インフラを成り立たせるために必要な構造力学や土質力学、水理学、さらには総合的なプランニングに関わる都市計画、環境アセスメントなど、都市環境工学の基幹となる専門科目を学びます。インテリアデザインなど建築系の科目も学び、幅広い視点を身につけます。

3年次 駅前広場や港の改善策を、自治体とともに考える。

「都市環境工学実験」では構造や水環境の実験に臨み、座学で学んだ知識を定着化していきます。「都市環境工学演習」では、包括協定を結ぶ習志野市や浦安市の担当者とともに、駅前や港にある課題に対し改善策を考察。まちづくりのプロとしての素養を高めます。


4年次 卒業研究で都市の課題を見つけ解決策を提案します。

各研究室に所属し、卒業研究に取り組みます。卒業研究は主に、自分自身で都市の課題を見つけ、住民の要望を踏まえて改善計画を立てる卒業計画、ニーズを踏まえつつ新しい手法を考える卒業論文の2つのパターンがあります。これらの研究を通して、総合的な力を養います。

科目		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	ステップアップ・イングリッシュ1 英語コミュニケーションA1 センテンス・ストラクチャ1 英語コミュニケーションB1 英語コンプリヘンションC1 英語コミュニケーションC1 日本語表現法	ステップアップ・イングリッシュ2 英語コミュニケーションA2 センテンス・ストラクチャ2 英語コミュニケーションB2 英語コンプリヘンションC2 英語コミュニケーションC2	英語コンプリヘンションA1 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コミュニケーションC1	英語コンプリヘンションA2 アドバンスト・コミュニケーションA2 アドバンスト・コンプリヘンションB2 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションC2				
	情報リテラシー	情報処理							
	人間力養成	スポーツ科学 初年次教育 キャリアデザイン1		キャリアデザイン2		キャリアデザイン3			
	国際理解	異文化理解 言語と文化1 言語と文化2				グローバル時代の法 国際社会論			
教養共通科目	人間・社会・自然の理解	哲学 倫理学 文学と芸術 歴史と人間 心理学 身体と健康の科学 憲法と社会 現代社会論 科学技術史 環境科学概論				政治と社会 経済学 生命科学 地球科学 物理の世界と先端技術 物質科学			
	総合				課題探究セミナー 総合学際科目				
教養特別科目		ソーシャルアクティブラーニング 国際インターン 国内インターン ボランティア				イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング3	イングリッシュアクティブラーニング2 スポーツアクティブラーニング	総合科学特論	
専門科目	専門基礎科目	数学基礎 線形代数 化学基礎 物理学基礎 創造工学基礎演習1	微分積分 基礎統計学 創造工学基礎演習2						
	専門基幹科目	物理学実験 化学実験	構造力学1 建設材料工学	構造力学2 土質力学 水理学1 国土・地域計画	応用力学 水理学2 環境アセスメント 都市計画	地球環境学 測量実習	防災工学 測量学	技術者倫理	
	専門展開科目			インテリアデザイン基礎	橋梁工学 地盤工学 鉄筋コンクリート インテリア設計	河川・海岸工学 衛生工学 交通計画 地理情報システム 都市環境工学実験 都市環境工学演習	水圏環境学 大気環境学 まちづくり論 交通工学 都市・地域経済学 景観工学	建設施工 環境音響学 住宅・住宅地計画 建築・都市関連法規 空間情報工学 専門特別講義1 ゼミナール1	ゼミナール2
								卒業研究	


(赤字: 必修科目 黒文字: 選択科目)

研究室 Pick up!




ありふれたデータから多様な環境を解明できるのが分析の魅力です。

温度や湿度といったよく知られているデータでも、分析技術を工夫することで驚くほどたくさんの気候現象を明らかにできます。その一例が、私たちの研究室で取り組んでいる乾燥地の土壌水分量調査です。人工衛星が測定したモンゴルの地表面の温度。これ自体は何の変哲もないデータですが、見方を変えて分析すると、その土の水含有量が見えてきます。そこに植生の状況や黄砂の舞いやすさといった環境の状態を関連付けることで、さらに多くのことが解明されていくのです。都市のヒートアイランド現象や大雨・竜巻といった学生の関心が高い現象も扱います。市街地、はたまた大陸で温度・湿度のデータを収集し、分析することで多様な環境を解明してみませんか。




水文気象学
松島 大教授



調査と分析から先人たちの知恵を学び、未来の景観づくりへとつなげます。

南アジアの小国・ブータンは独特の文化発展を遂げている特徴的な国です。とりわけ伝統的な古民家は、厚い土壁と木組みでつくられ、1階が家畜小屋、2階が穀物倉庫、3階が居住スペースという珍しい構造。しかしそれら伝統的な古民家が、近代化の波で姿を消しつつあります。私たちの研究室では、古民家の保存プロジェクトに参加し、街の文化や人々の生活も含めた“景観”を対象に、現地での実測調査を行っています。調査で出会ったある村では、建物の構造や機能、配置、植栽の種類や本数に至るまで合理的につくられていることを発見。土地の風土や文化の中で培われた先人の知恵を分析し、データとして残す。未来に対して意義のある研究です。



景観工学・景観計画・景観デザイン、
景観原論・風景論
吉村 晶子准教授